

# 事業報告書

## 第 35 期

自 平成31年 4月 1日  
至 令和 2年 3月31日

公益財団法人前立腺研究財団  
東京都新宿区西新宿一丁目12番12号

# 令和元年度 事業報告書

## 1 役員等

平成31年3月31日現在の役員等

理事	7人(理事長 1人 専務理事 1人 常務理事 1人)
監事	2人
評議員	9人

## 2 会議

### 1) 理事会

令和2年1月6日(第1回臨時理事会 書面審議)

令和元年5月19日(第1回通常理事会)

令和2年3月14日(第2回通常理事会)

### 2) 評議員会

令和元年6月9日(定時評議員会)

### 3) 第35回前立腺シンポジウムプログラム委員会

令和元年9月21日

### 4) 前立腺がん検診研究(伊藤班)・人間ドック施設アンケート集計報告会議

令和元年12月14日

### 5) 平成30年度「研究助成」選考委員会

令和元年12月15日

### 6) 令和元年度前立腺シンポジウム運営委員会

令和2年2月9日

## 3 事業

### 1) 前立腺シンポジウム学術集会の開催について

第35回前立腺シンポジウムは、令和元年12月14日(土)、15日(日)に東京コンファレンスセンター・品川で開催した。

第1日目は「オープニングセミナー」、「基礎部門」の指定演題発表と「教育セミナー1」および新企画の公募演題、ワークショップを実施。

第2日目の「臨床部門」では、教育セミナー2においてDr. Michael S. Hofmanの講演および「局所進行・オリゴメタ前立腺がんの診断・治療」をテーマとして、口演セッション・ポスターセッションを実施した。

今回のシンポジウムは、300名を超える参加者であった。

## 2) 研究助成の実施について

令和元年度における助成金は、3 課題【最優秀課題：1 課題（1 課題 100 万円）、優秀課題：2 課題（1 課題 50 万円）】合計 200 万円を研究助成金として交付した。

<応募件数（選定件数）>

- ・基礎的研究課題：13 課題（2 課題）
- ・臨床的・疫学的研究課題：2 課題（1 課題）

### 【最優秀課題】

- ① 安水 洋太：慶應義塾大学 泌尿器科学教室 助教  
研究課題：神経内分泌前立腺癌の層別化による新規治療戦略の確立

### 【優秀課題】

- ① 占部 文彦：東京慈恵会医科大学 泌尿器科学 助教  
研究課題：前立腺癌細胞由来エクソソームを標的とした革新的骨転移治療薬の開発。
- ② 三宅 牧人：奈良県立医科大学 泌尿器科学 助教  
研究課題：低線量率密封小線源療法を受ける前立腺癌症例に対する経口 5-アミノレブリン酸の有害事象予防効果

## 3) 人間ドック施設における前立腺がん検診実施状況調査(令和元年度)

公益社団法人日本人間ドック学会の協力のもと、平成 17 年度より継続実施している「人間ドック施設における前立腺がん検診実施状況調査」は、第 14 回の調査と同様に、前立腺がん検診実施状況の更なる詳細を把握する目的をもって、315 施設にアンケート調査票を配布したところ、137 施設より調査票の回答を得た。回答率は、43.5%であった。

本調査の結果(第 14 回分)に解析を加えたデータを、「人間ドック施設における前立腺がん検診アンケート集計報告」として冊子に公表した。

## 4) 情報提供「がん医療チャンネル」の実施について

「がん医療情報」を求める患者・家族の情報源は Web サイトである。当財団は、多くのがん啓発団体と連携し、Web サイトで、がん医療に関わる映像やセミナーの予定などを配信するがん医療チャンネルに加盟し、Web にて科学的根拠に基づく「がん医療情報」を提供した。

令和元年度は以下の 2 名の先生の情報を配信中

- ① 藤井 靖久：東京医科歯科大学大学院 腎泌尿器外科学 教授  
テーマ：根治的治療後に再発した前立腺がんの診断と治療
- ② 坂本 信一：千葉大学医学部附属病院 泌尿器科 講師  
テーマ：骨転移数からみた前立腺がんの治療戦略

## 5) 学術図書等の刊行について

前立腺がんの正しい知識の啓発として、保健行政担当者向けに、前立腺がん検診に関するトピックス等の特集した「前立腺がん検診学術ニュース」を刊行。

住民検診実施時に市民から寄せられる問い合わせ等に活用するとともに財団ホームページ上に内容の要約を開示し広く社会一般に公表した。

令和元年度は、「前立腺がん検診学術ニュース第13号」を刊行した。全国の自治体(1,741カ所)および関係機関(190カ所)、新たに都道府県医師会長宛て(47カ所)複数部送付した。

## 6) パンフレット等の印刷について

一般市民向けに、前立腺がん検診についての最新情報をわかりやすく解説した「PSA 検診受診の手引き」のパンフレット及びパンフレットダイジェスト版を印刷し、必要に応じて全国の自治体等への送付並びに市民公開講座開催時の配布資料に提供した。また、ホームページ上に内容の要約を開示し、一般に公表した。

## 7) 前立腺がん患者の脂質代謝・骨代謝に及ぼす内分泌療法の影響

— 酢酸クロルマジノンおよびビカルタミドを用いた比較検討 —

【研究期間：平成26年～30年の5年間の研究成果報告】

主任研究者：酒井 英樹 長崎大学大学院 泌尿器科学 教授

### 【目的】

前立腺癌男性に対する酢酸クロルマジノン+GnRH アゴニスト併用療法とビカルタミド+GnRH アゴニスト併用療法が脂質代謝および骨代謝に及ぼす影響について比較検討する。

### 【研究成果の概要】

先行研究で認められた酢酸クロルマジノンの総コレステロール上昇を抑制する効果は本研究でもみられたが、ビカルタミドとの間で有意差はみられなかった。血清脂質値に群間差はなかったものの、皮下脂肪体積の増加率は酢酸クロルマジノン群が有意に低く、両薬剤の脂質代謝に及ぼす差異が示唆された。一方、両群ともに経時的に大腰筋の体積が減少したが、酢酸クロルマジノン群で減少率が大きかった。骨代謝に関して群間差はなかったが、将来の高回転型骨粗鬆症予防の必要性が示唆された。QOLは緩やかな低下がみられ、群間差はなかったが、酢酸クロルマジノン群で食事量がより増加する傾向がみられた。

## 8) 前立腺がん微小がん発症と臨床がんへの進展の1次予防(化学予防)についてのコホート研究

主任研究者：伊藤 一人 医療法人社団美心会 黒沢病院 院長

### 【目的】

本研究は食生活習慣因子と前立腺癌の発症リスクの関連性を検証する。

### 【研究の構成】

2つの前向きコホート研究から構成される。研究1では、比較的若年齢層（主に40歳代）での微小癌発症（癌のイニシエーション）について、血清中イソフラボン濃度、一般的な食生活習慣の影響を、コホート研究により検証する。

研究2では、45～54歳の検診受診者の中で、PSA基礎値高値例（前立腺癌発症高リスク群）とPSA基礎値低値例（前立腺癌発症低リスク群）について、将来の前立腺臨床癌進展へ影響する因子を探索することを目的とし、両研究ともに5～8年間の追跡調査を行う。

## 9) 前立腺がん各種抗男性ホルモン療法治療患者さんの長期にわたるQOL調査研究

【研究期間：平成27年～31年の5年間の研究成果報告】

主任研究者：鈴木和浩 群馬大学大学院 泌尿器科 教授

### 【目的】

前立腺癌が男性ホルモン依存性癌である生物学的特徴から男性ホルモンを抑制するホルモン療法は進行性病期では第一選択肢として、また限局性病期であっても放射線療法との併用などで幅広く施行される。本研究ではホルモン療法を施行する前立腺癌患者さんの長期にわたるQOLの調査を治療初期から去勢抵抗性前立腺癌の状態になるまで連続しておこなうことを目的としている。

### 【結語】

前立腺癌症例のQOL評価をEPICおよびFACT-Pを用いて36ヶ月の長期間にわたり行った。転移症例では排尿状態が悪いが治療により改善してくることが示唆された。ホルモン機能は全体的に治療前、調査開始時には割ることが示されたが、ホルモン療法の経過中に有意差がなくなることは、状況の受容・寛容が生じてきていることが示唆され、患者自身で折り合いをつけていることが示された。また治療前の十分な説明が近年では行われていることも、以前の検討と比較してホルモン負担感が軽減していることと関連していると思われた。

## 10) 前立腺がん死に対するPSA検診の効果検証について

主任研究者：伊藤一人 医療法人社団美心会 黒沢病院 院長

### 【目的】

前立腺がん検診の有効性を多角的に検証する。

### 【目標】

対照研究のモデル地区ではPSA検診受診率を60%以上に上げることを目標とし2020年度中に、モデル地区では、検診受診者・精密検査受診者・がん発見症例・がん死症例とその転帰の記録が個人認識番号により全て連結され、対照地区に関しては、住民検診曝露率、年度別生検施行数、がん登録、がん登録症例の転帰に関するデータベースの構築が行われる。2019年度より、群馬県内の前立腺がん検診データと、地域がん登録・予後情報との連結を行う研究が計画されており

(2019 年年度内に関係各所の倫理審査通過・UMIN への登録予定)、本研究における群馬コホートのデータとの連結も研究計画に盛り込む予定で、より信頼性の高いデータベースの構築を目指す。

2020 年度以降に上記新規疫学研究と連携したデータベースの構築後に、統計学的解析により、1) 検診曝露率と転移がん進展リスク低下、がん死低下効果の関係、2) 検診開始年齢と転移がん進展・がん死リスクの関係、3) PSA 基礎値・検診間隔と転移がん進展・がん死リスクの関係、4) 検診の費用対効果比、5) 検診受診の有無・治療方法別の QOL の比較、などの極めて重要な疫学・臨床研究を行い、各項目の解析の結果を医学専門誌に公表する手段を講じる。

#### 11) キャンペーンの後援名義使用について

前立腺がんの正しい知識を国民にわかりやすく伝えることを目的とした「ブルーローバー・キャンペーン」に対し、後援名義の使用承認を行った。

(NPO 法人 前立腺がん啓発推進実行委員会代表者：深貝隆志 昭和大学江東豊洲病院外科系診療センター泌尿器科 教授)

##### 【キャンペーン概要】

市民公開講座を開催し、配布資料に当財団の刊行物、パンフレット等を提供している。また、キャンペーン事務局と当財団ホームページとリンクし、前立腺がんに関する最新情報を発信することができた。

#### 12) 第 35 回前立腺シンポジウムの講演内容等の専門誌への掲載

令和元年 12 月 14 日、15 日開催された第 35 回前立腺シンポジウム(学術集会)の講演内容・成果について、専門誌「泌尿器外科別冊 2020」に掲載する。

#### 13) 知識の普及啓発(広報活動)

広報活動の一環として、パンフレット、ポスター、前立腺がん検診学術ニュース、定期刊行物等を必要に応じて、自治体、関連企業等に配布した。

### 4 情報の収集

前立腺肥大・がんに関する多くの情報を、国内外の関係機関から収集整備し、情報交換等の場を広げることに努めた。

以 上